

# 私を語る

第28回

J. M. 新制21回

昭和46年 食物学科卒

入学をちゅうちょしていた私に、「日本女子大は人として尊敬できる多くの優秀な女性が学んだ大学。君にとって他大学に進むよりも、きっと生涯の宝となる出会いと学びが出来ると思う」と言った父の言葉を折に触れ思い出します。

入学後すぐ目白のゆりの木の下でその生涯の宝物、ワンダーフォーゲル部と出会いました。高山植物写真の美しさと先輩に憧れて即入部。大自然の中で安全に活動するための厳しいトレーニングが待っていることも知らずに。新人養成合宿、30kgの荷を背負い10日間山々を縦走する夏合宿、秋合宿、スキー合宿、春合宿、多くの活動を通し必要な技術を身につけ、自然の恐ろしさ素晴らしさも身をもって理解し、共に歩む仲間と感動の涙を流す幸せを知りました。リーダー学年の時は綿密な行動計画や事前調査、万一の事故発生を想定した危機管理計画を作り、チームとしての信頼関係を築き合宿に臨みました。その時に学んだことが仕事に家庭運営に役立ちました。OG会活動では更に多くの素晴らしい先輩後輩と出会い、学びが続いています。

食物学科では熱心に丁寧に教育していただきました。特に第1号の管理栄養士コースを選択した者として、病院で働くことになった際に実感しました。産前産後6週間の産休後現場復帰し、2人の息子を育てながら職業人生を全う出来たのは卒業生としての自負と、理解のある夫や家族親族や知人の支援があったからこそと感謝しています。